

ニット製品

バングラで一貫生産

丸久、生地工場を増設

子供服メーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石雅浩社長)はバングラデシュ工場を増設、ニット生地の生産を始める。投資額は総額5億円で10月に稼働。生産能力は最終的に日産10トになる。同工場で生地へのプリントと縫製はすでに行っている。今回の増設で糸から最終製品まで一貫生産体制が整う。



第1期ではプリントと縫製を行っている(丸久のバングラデシュ工場)

国内スーパーPB向け

増設する工場は延べ床面積約1万平方メートルの5階建て。糸から生地を作る「編立(あみたて)」と呼ばれる工程と、出来上がった生地の色を付ける染色工程を新たに始める。10月の稼働時の生産能力は日産5トで、Tシャツに換算すると約2万5千枚。新たに現地で80人を雇用する。

その後、順次設備を増強し、2012年中に主力の子供服ではTシャツ

ツ、トレーナーなどのカジュアルの定番商品が中心。イトーヨーカ堂やイオンなどにプライベートブランド(PB)自主企画商品として販売する。ティーンズ向けや婦人服のほか、欧米メーカー向けスポーツウエアなどOEM(相手先ブランドによる生産)も担う。

同社によるとバングラデシュは日本が輸入製品に通常より低い関税を適用する「特恵関税」の対象国。バングラデシュから繊維製品を輸入する場合は、現在では製糸、生地製造、縫製の3工程を経た製品でなければ特恵関税の適用を受けられないが、来年度から生地製造、縫製の2工程に基準が緩和されるといふ。

新工場が稼働すれば基準を満たすことになり「中国から同じニット製品を輸入するより約10%安くなる」(平石社長)という。丸久は特恵関税の緩和で、バングラデシュからの繊維製品輸入が増加すると見ている。

避と、欧米向け製品の生産拠点の確立を目的にバングラデシュ進出を決定、10年6月に操業を始めた。今回の増設は第2期分で、今後はデニム製品の縫製などにも進出する計画だという。

丸久は中国・青島に主力の縫製工場を置く。生産拠点の中国への集中心